

## 1 はじめに

近年、学校教育においてもICT環境の整備や利活用が急速に進んだことにより、総合的な学習の時間や各教科の学習活動の中で様々な著作物を取り扱う機会が広がっている。しかし、ITC機器の利活用は学校だけにとどまらないのが現実である。家庭でもコンピュータが普及し簡単に音楽CDやビデオなどの著作物をコピーすることができるようになった。便利ではあるが、無意識のうちに他人の著作権を侵害してしまう機会も増えている。そういった中、著作物に対して学校現場だけに留まらず、家庭の中でもどのように判断しどう対処するべきかという心構えを児童に持たせることは情報社会の中でよりよく生きていくための大切な考え方や態度の育成につながると考えている。

## 2 研究内容

### 2.1. 著作権教育の授業実践の積み重ねと新しい研究の視点

昨年度、69例の著作権授業の指導案を分析した。その結果から、著作権教育について「気付く」「理解する」「行動する」の三つの柱を導き出した。小学校から高等学校に学年が上がるにつれて心情を扱った授業実践よりも、著作権について身の回りの著作物を探して理解を深めたり、引用や許諾を得る体験活動を取り入れたりする実践が増えている。また、三つの柱の中では心情面を扱った実践が最も少ないことがわかった。小学校の段階では、最も実践の少ない心情面に焦点をあてた授業が大切ではないかと考えるに至った。そこで、心情面に焦点を当てた著作権教材を三つ作成し、授業実践を重ねた。その結果、子どもの中に「人の著作物を大切にすること」「書いた人に感謝すること」という気持ちが芽生えたことは大きな成果であった。それら三つの教材は、主として学校生活における著作権の問題を切り口とした題材を選んでいるのが特徴である。

転勤し新しい学校に赴任した今年度は、昨年度に積み重ねる形で「家庭生活における著作権の問題」を切り口にした教材をつくり実践をすることにした。また、心情面を取り上げながらもさらに身の回りの著作権の問題にも言及した発展的な教材となるようにした。

### 2.2. 目指す態度と取り上げる題材の工夫

昨年度の実践と基礎になるものは同じである。著作権教育の授業実践の状況から「著作物を尊重する態度の育成」を目指していく。著作権教育の授業実践には、心情面の実践が少ないことと、「著作物を尊重する態度を養う」には小学校で心情面を大切にすることが重要だと考え著作物の大切さに気付くことに目標を絞った授業を実践する。

授業で使用する著作権指導用教材群は新たに開発し、他者評価をもとに修正・改善を加えながら著作権教育に役立つ、汎用性のある授業支援情報としてまとめる。

題材には、著作権者と著作物の利用者の二つの立場を盛り込むことで児童に多様な考えをださせ、その違いから著作物の大切さに気付かせるようにする。

今回は家庭生活での問題を取り上げる。

最近私たちの学区にもレンタルビデオの店ができ、子どもたちも好きな歌手のCDを借りたり、ビデオを借りたりする機会も増えている。借りたCDを実際にコピーして自分で楽しんでいる子どもも多い。そこでの著作権問題を取り上げた教材である。

CDのコピーの問題で最も難しいのは、著作権者が直接見えないことである。特に歌手以外の方で創作活動を支える仕事に携わっている人のことにはなかなか子どもの目がいけないのが実情である。今回の授業では、直接目の前にいない著作権者の方やその後ろで働かされている大勢の方々の存在に気付くように題材を工夫した。

家庭での問題を扱った著作権指導用教材は二つ用意した。

一つ目の教材は、昨年度と同じようにだれでもお追試できるような八つの著作権指導用教材群として

まとめた。最も子どもたちの身近な存在であるレンタルCDをコピーすることを題材に選んだ。

二つ目の教材は、テキスト形式として丸Cマークから導入し海賊版のことにも触れた。

### 2.3. 指導用教材の構成

一つ目の教材は、著作権教育に役立つ授業支援情報になるように下の八つの教材で構成している。また、児童の反応・教師への教材に関するアンケートなどを参考にして修正・改善を加えながら指導用教材を作成していった。

- 【 場面紹介資料】 教師が読み上げながら授業を展開する教材。
- 【 デジタル教材】 資料に合わせて作ったパワーポイントの教材。
- 【 印刷用教材】 紙に印刷して提示できるように作った教材。
- 【 指導案】 教材やワークシートの活用場面やタイミングがわかりやすいように示した教材。
- 【 場面指導細案】 どのタイミングでデジタル教材をクリックして進めていくのかを詳しく書いた教材。
- 【 板書計画】 デジタル教材の投影場所や板書例を書いた教材。
- 【 ワークシート】 児童が自分の考えや感想を書き込む教材。
- 【 ワークシートの朱書き】 児童の考えや予想などの留意点を書いた教材。

二つ目の教材はICT機器をつかわないテキスト教材とした。テキスト教材とすることでICT機器の使用があまり得意でない先生方にも使っていただけると考えたからである。内容は、身近な丸Cマークから導入し著作権について解説をした後、最近問題にもなっている海賊版のことについてもふれた発展的なものになっている。心情面を扱ってはいるが、家庭での著作権問題をまた少し違った視点で授業できるようにしたものである。最後の頁には、学習したことを子どもたちが楽しんで確認できるように迷路型の問題を載せた。

2つの教材は、内容的には同じような箇所もあるが、一度だけでなく何度か視点を変えて授業することが大切だと考えたからである。

## 3 実践授業の概要

実践授業は、小学校道徳「思いやりの心」の単元と総合的な学習の時間において津山市立弥生小学校の4学年3クラスで平成19年10月と11月に3時間の計画で行った。クラスは5年生3クラスである。次に指導計画を示す。一つ目の教材は「場面紹介資料」と「デジタル教材」「ワークシート」を、二つ目のテキスト資料は全部の頁を資料として添付する。

第1時 太郎君のコレクション

第2時 著作権について知ろう その第1時

第3時 著作権について知ろう その第2時

なお、教材の中にある人物イラストはIPA教育画像素材集サイトのものを使用させていただいています。出典：IPA「教育用画像素材集サイト」<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

テキスト教材にある文房具のイラストは素材っち

<http://sozaizchi.com/illust/bungu/index02.html>

写真は創通エージェンシー・サンライズから許諾をいただいて使用しています。

### 3.1. 第1時 太郎君のコレクション

音楽の好きな太郎君がコピーしたCDを、友だちの健二君にコピーして渡すという内容である家庭でよく見られることを題材に取り上げている。

太郎君はコピーして渡すことが果たしていいことなのか迷うが、健二君には全く罪の意識はない。コピーされた音楽を楽しむ健二君を見つけ、お父さんが本当に誰にも迷惑をかけていないのかと尋ねる。なぜ、違法のCDがいけないのかお父さんが説明するのではなく子どもたちが考えて答えを導くように授業を構成した。子どもたちは次のような感想を残した。

- ・ 今日の学習は人の気持ちもわかるし、どういうことをやっていいかやっではいけないかよくわかった。
- ・ 人が働いて作ったCDとかを勝手にダビングして友だちにあげてはいけないんだなーと思った。健二君やお父さんの気持ちがよくわかった。

### 3.2. 第2、3時 著作権について知ろう

子どもたちが持っている文房具の中にもたくさんの丸Cマークマークがあることがわかり、新しい発見になったようである。そのマークから著作権について説明し、なぜ著作権が必要なのかを著作権者である作曲家の太郎さんと、利用者である花子さんの心情から考えさせた。花子さんはどこにでもいるような普通の小学生で自分は悪いことをしているという意識はない。著作権に触れるから悪いという短絡的な見方ではなく、そのことによって生計を立てている方がいて創作活動の源にもなっていることについてわかるように授業を組み立てた。

私の学校でも多くの保護者の方が海外に仕事に出かけ、子どもたちの中には実際に海賊版という言葉を知っているものもいる。そこで発展的な学習として海賊版を使うことでどのようなことが起こるのか子どもたちなりに考えていた。最後は楽しんで学習ゲームで著作権について確認をしていった。

- ・ 著作権という言葉を知って勉強になった。自分が持っている鉛筆にもちゃんとマークがはいっているんだなと思った。
- ・ 勝手にコピーしたり、海賊版を使ったりしたらそれを作った人が困ってしまうことがよくわかった。

## 4 結果と考察

### 4.1.

- ・ 昨年度と同じように、児童の中に人の物を使うときは許可を得る必要性があることや著作物を大切にしようとする態度が養われた。
- ・ 児童が、著作権について身近な丸Cマークをきっかけに理解を深め、なぜ著作権が大切なのかを実際の著作権者の心情になって考えることができた。
- ・ 著作権者と利用者という二つの立場を考えさせることから、児童に多様な意見を出させることができた。
- ・ 心情面の指導に目標を絞った著作権指導用教材を開発することができた。
- ・ 家庭で起こる著作権の問題を取り上げる著作権指導用教材を開発することができた。
- ・ 小学校では心情面に目標を絞った実践が必要である。
- ・ 今回は、テキストだけの教材も開発したが、多忙な学校現場で普及させるには準備に時間がかからないことも必要であり、さらに現場の実情に合わせた多種多様な教材が必要である。